

## 第一回「そうだ、地方で暮らそう！」国民会議の委員からの追加のご意見

(見城委員)

○ 現在、青森大学の副学長を務めているが、地方創生の大きな課題の一つとして地方大学の疲弊があり、特に東北・北の地方が問題と考えている。今回の委員メンバーを見ても中央、西、南の方々が多く、また、現実に移住希望は、山梨、長野、岡山、瀬戸内海など西・南の地方が圧倒的に多い。

今後は、このことも踏まえ、東北・北の地方に重点的に対応していくべき、と考えます。

(大原委員)

○ この会議の重要な課題の一つは「一流の人材が地方に在住するための条件を整える」ことである。そのためには、全国各地に「世界一流の地方」を育てる必要がある。東京が世界一流の首都になると歩調を合わせ、全国各地に世界一流の地方都市、田園、リゾート、ビジネス拠点、文化芸術拠点が育つて初めて、地方創生は形が整う。

その萌芽を育てるため、全国各地にハイエンドな「地方力研磨サロン(仮称)」を設けることを希望する。そこには「世界の一流の地方」に関する様々な資料をそろえ、世界一流の地方を目指す首長や市民や研究者が自主的に集まって車座の議論が出来るようなものとする。そのための施設として、図書室、調査研究室、ワークショップ室、談話室とそれに連動する潇洒なバー、などを備えることが望ましい。

設置場所は「世界一流の地方たり得る蓄積と個性を備えた地方都市」(例えば函館、角館、松本、松江、長崎など)で、全国に十か所程度が適当と思われる。(東京は論外)

(ちなみに、私の本拠である倉敷も「世界一流の地方都市」たらんと尽力している。)

(黒笹委員)

### 1. 移住リクルートは、いいところも悪いところも情報開示を

移住は結婚とよく似ている。ともにその人の人生にとって重大な決断である。その土地が「好き」だけでは移住につながらない。その土地のいいところ、悪いところを含めてすべてを受け入れて「愛せる」人だけが移住できる。そこまではムリならば、移住しないじほうがいい。「好き」ではなくて「愛せるかどうか」がポイント。だから移住を誘致する側は「いいところ」だけでなく「よくないところ」も等しく情報開示して、移住者の人生の決断を誤りのないようにする責任があると思う。

### 2. 人の心に「移住スイッチ」を入れるための言葉を大切に

「そうだ、地方で暮らそう！」のキャッチコピーは悪くはないと思うが、人生の大きな決断を促すには充分ではないと思う。軽すぎる。もしこの流れで押し切るとすれば「そうだ、地方で暮らそう！」ではなく「よし！地方で暮らそう」ではないか。「そうだ」と「よし！」の間には大きな違いがある。私が言いたいのは、相手に移住を決意させる「ことば」には細心の心遣いが必要だということ。人の心に本当に届く「ことば」を探りだす努力を、移住を促す側(国や県、市町村)はもっともっとやらねばならない。年齢、性別、その人の置かれている社会的立場などによって、心に届く言葉はそれぞれ違うことが予想される。私の経験では、広告代理店やコピーライターに丸投げしても相手の心に届く言葉は生まれない。

### 3. いちばん信用できるのは、実際に移住した人のナマの声

高知県の移住促進協議会の場で民間委員として私がお願いしたのは、実際に高知に移住した人の詳細なインタビューを県の移住促進サイトに動画で載せること。移住の理由は100人いれば100通りある。パタ

ーン化したり、編集したり、要約したりせず生のまま流すだけでいい。本当に移住したい人は自分と似た先輩移住者を必ず探し出し、その人の言葉や意見を参考にする。だから移住を促す側はできるだけたくさんケースを用意し、自由に探し出せる場を提供することに注力すべき。

#### 4. 大都市から地方小都市への移住促進を

移住のハードルを高くしているのは、移住というと「都市→田舎」のイメージが定着しているから。実際は東京や大阪などの大都市から、高知市などの地方小都市への移住を勧めたほうがハードルを低くできる。快適な都市型ライフスタイルを維持しながら、良好な自然環境を身近に置き、週末のライフスタイルを豊かなものに変えることができる。「ビッグシティ→スモールシティ」型の移住促進策を国はもっと強化すべきだし、受け入れ側の地方都市もそれをアピールすべき。

#### 5. 次回以降の国民会議を地方で

「そうだ、地方で暮らそう！」国民会議の開催地は、移住促進に力を入れている県を中心に持ち回りで開催するほうが全国へのアピール効果があると思う。

(横田委員)

○ 女性社長.net では、3年前より全国各地の個性あふれる女性起業家たちに会いに行くイベントを実施しており、地方でも若手女性起業家が育っていると実感している。各地の女性起業家が育つこと、テレワークが進むことで小さくとも雇用創出に貢献ができると考える。

・地方を含む元気な女性起業家を紹介したサイト

J300 アワード (<http://j300.net/2014/award/>)

※この他、大垣委員から、会議での発言に関し参考資料のご提出がありました(別添のとおり)。

# 持ち家を終身で借り上げて家賃保証する制度で、人口循環と住宅の世代循環を支援

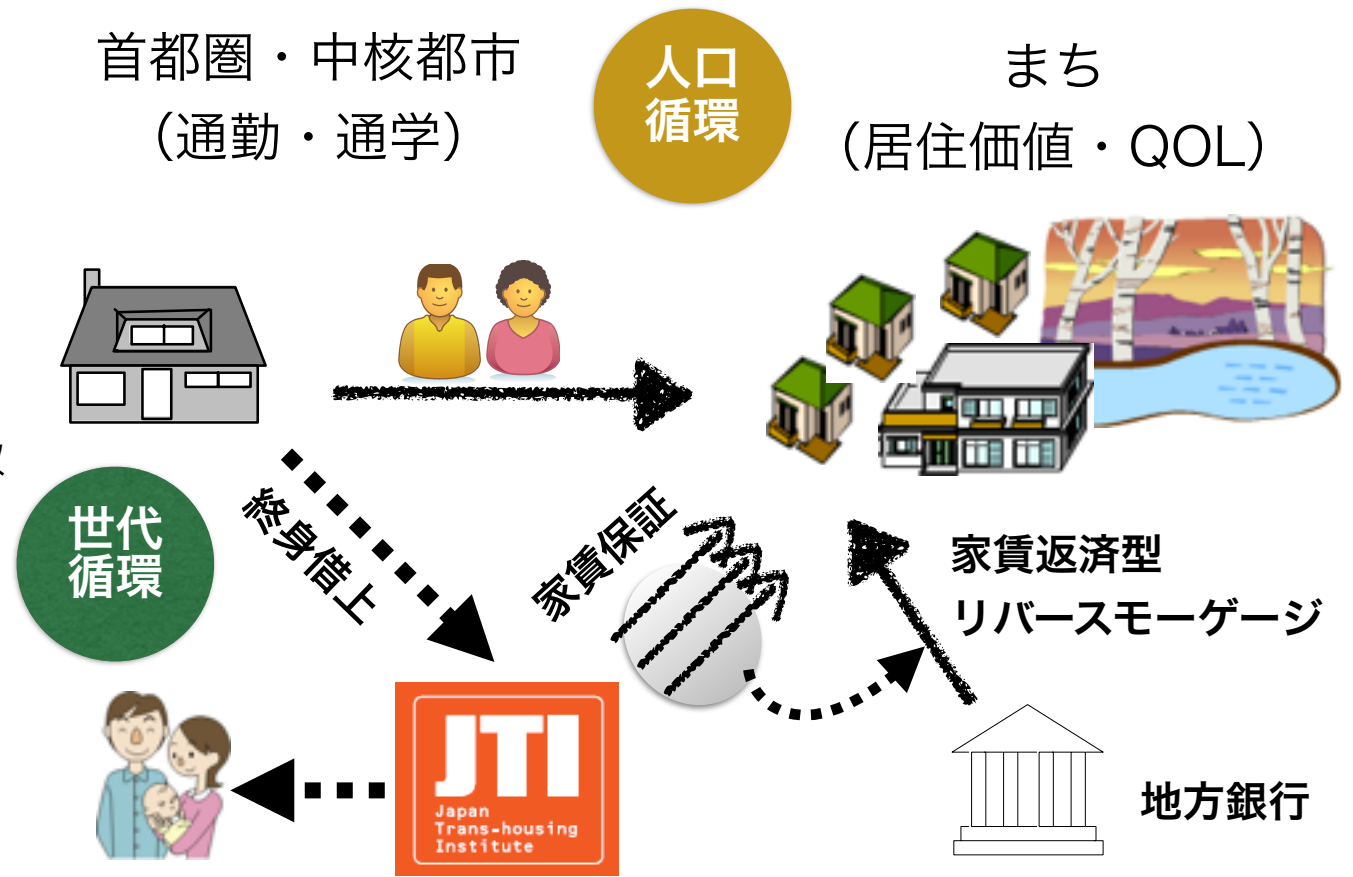
## マイホーム借上げ制度 (2006年10月～)

### 制度内容

- 借上げ期間
  - 終身型：終身で借り上げて3年の定期借家で転貸
  - 期間指定型：期間指定で借上げ・転貸。中途退去リスク吸収
- 50歳以上(人) ⇒ 耐震0.7以上
- 長寿命住宅(家) ⇒ 何歳からでも(証明書発行)
- 賃貸専用を除く。別荘・相続・2軒目以上もOK。
- 全国可能(家賃で調整)
- 空き家・空き室保証：受益者負担でリスクの99%をカバー。これを超える万一のリスクを政府基金(5億円)で保証。

### 実績

- 2015年5月21日までの取扱件数は**770**件  
(うち、769件が終身型)
- 情報登録の上、カウンセリング中もしくは家賃の予備査定を受けて検討中の者:**2632**名。
- 借上げ物件の平均面積(2014.11.13現在)
  - ◆ 一戸建：115㎡、マンション：72㎡
- 貸主の平均年齢：60歳、借主の平均年齢：44歳  
(2014.11.13現在)



### 新しい取組み

- 定額家賃保証
  - 耐震改修を前提に、借上げ期間中の最低家賃を金額保証
- おまかせ借上げ制度＝空き家の年金化
  - 空き家を10年以上の長期で借り上げて、JTI自身が耐震改修等を実施して転貸運用。
- 残価保証型住宅ローン・安心借換え支援
  - 将来の借上げを保証することで、住宅ローンを退職・住みかえ後は安心返済。